

継続事業評価調書

【港湾事業】

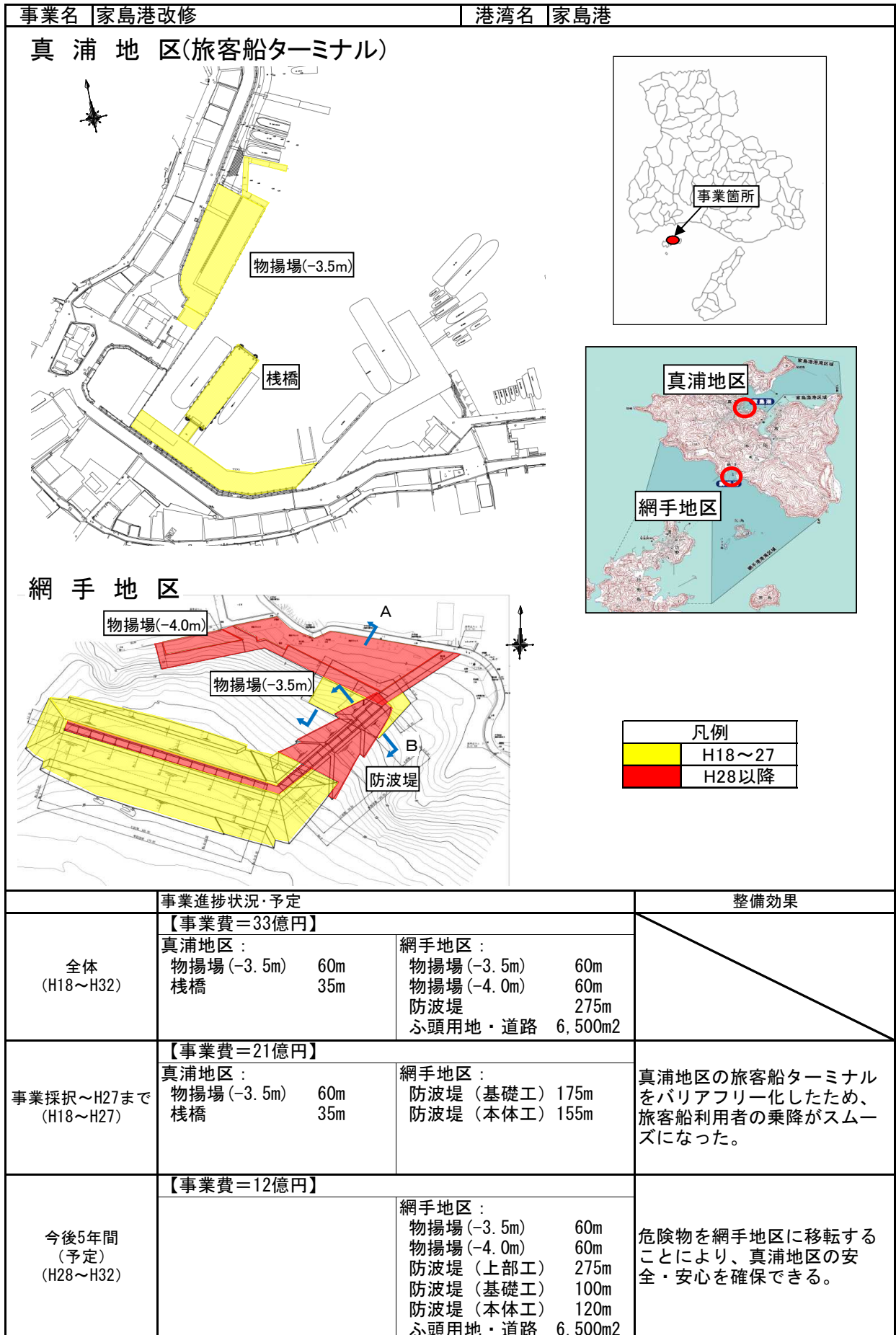
家島港改修

県土整備部
土木局 港湾課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）


部課室名	県土整備部土木局 港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 土江 明 (整備班長 中村 文彦)	内線	4440 (4450)
事業種目	港湾	新規評価年度	平成 17 年度		今回評価
事業名	家島港改修	事業採択年度	平成 18 年度	総事業費	33 億円
		着工年度	平成 18 年度	内用地補償費	一億円
		再評価年度	—	完成予定年度	平成 32 年度
事業区間	姫路市 家島町			進捗率 (内用補進捗率)	60% (-%)
				残事業費	12 億円
事業の目的		事業内容 () 前回評価時点			
家島港では安全・安心な離島航路の確保及び水域利用の適正化が求められている。真浦地区の旅客船ターミナル周辺の再整備を行うとともに取扱貨物の一部を移転する網手地区の施設整備を図り、家島の住民生活の向上、産業及び観光の活性化を図る。		真浦地区	物揚場(-3.5m)改良 棧橋	延長	60m (50m) 35m (30m)
		網手地区	物揚場(-3.5m)新設 物揚場(-4.0m)新設 防波堤新設 ふ頭用地・道路	延長	60m (60m) 60m (120m) 275m (300m) 6,500m ² (8,000m ²)
		【負担割合】係留施設：国 60%，県 40% 外郭施設：国 80%，県 20%			
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	家島本島の人口が 4,573 人(H17 国調)から 3,355 人(H22 国調)に減少した。				
	【新規評価時点からの事業計画の変更概要】 ①網手地区については、家島の人口減少に伴って生活物資(プロパンガス、油脂類)の荷揚げ量が減少したため、物揚場(-4.0m)の施設延長を120m(2隻分)から60m(1隻分)に減ずる等、施設配置計画を見直した。その結果、総事業費を2億円減額する。 ②網手地区の施工にあたっては、当初漁協と通年施工で調整していたが、海苔の品質への影響の懸念から施工期間の制限(5月～9月のみ工事可能)を受けるため、平成32年度の事業完了とする。				
進捗状況	①真浦地区は平成25年度に事業を完了した。 ②網手地区は平成20年度に防波堤工事に着手し、防波堤延長275mのうち、現在までに基礎工(基礎捨石)175m、本土工(ケーソン)155mが完了している。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H17年度新規評価)	【審査会意見】新規着手妥当 ①家島町の将来像を見据え、地域の振興に寄与するよう「家島町 港湾・漁港マスタープラン」(以下マスタープラン)を基本とし、事業を行うこと。		【対応方針】 ①取扱貨物の機能分担、船舶航行の安全性、住民及び来島者の快適性等の改善内容が盛り込まれた「マスタープラン」により両地区の施設配置計画を行った。		
(1)必要性	①真浦地区は、プロパンガス、油脂類等の危険物が人口密集地で陸揚げされている。網手地区を整備して危険物等を移転し、住民生活の安全、安心の向上を図る。 ②網手地区は、大型船舶が係留できる家島で唯一の場所である。				
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	①費用便益比 総事業B/C=1.6(前回評価時 B/C=1.9) 残事業B/C=1.2 ②旧家島町及び住民が参画と協働で作成した「マスタープラン」を基本とした整備であり、地元の要望が強い。				
(3)環境適合性	①網手地区東防波堤において、防波堤内のよどみ等の環境改善を図るため、防波堤内外の海水交換をスムーズに行える形状のケーソンを設置する。				
(4)優先性	①網手地区についても地元の要望が強い。				
再評価の結果	継続	理由	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、真浦地区の危険物等を網手地区に移転する必要があること、地元の要望も強いことから継続して事業を実施する必要がある。		



事業進捗状況概要図（継続：再評価）



位置図



凡例	
	海苔養殖場

凡例	
	: 事業箇所
	: 主な道路

整備状況

真浦地区



着手前既設ターミナル周辺混雑状況(東側から望む)

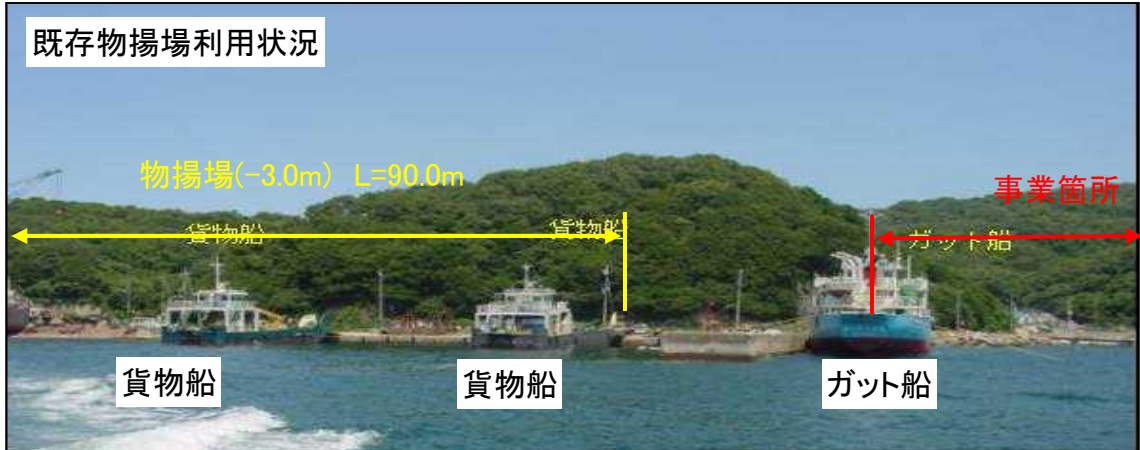


着手前既設ターミナル周辺混雑状況(西側から望む)



整備状況

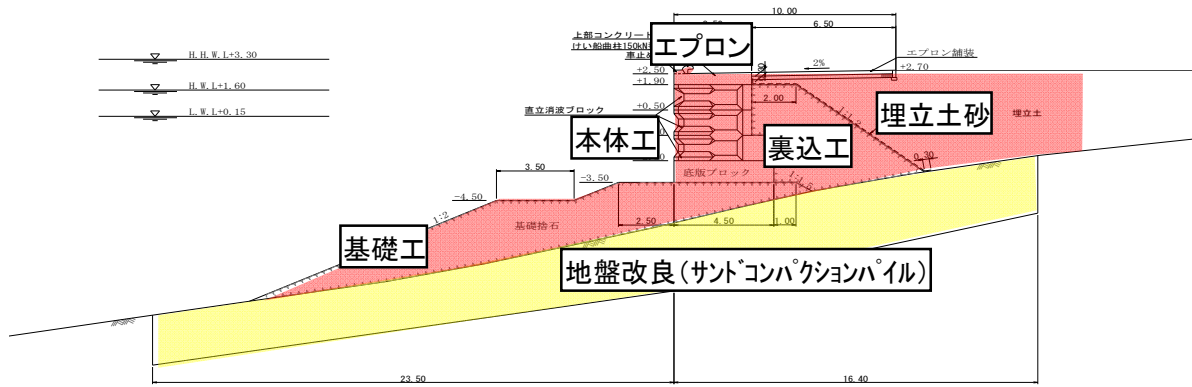
網手地区



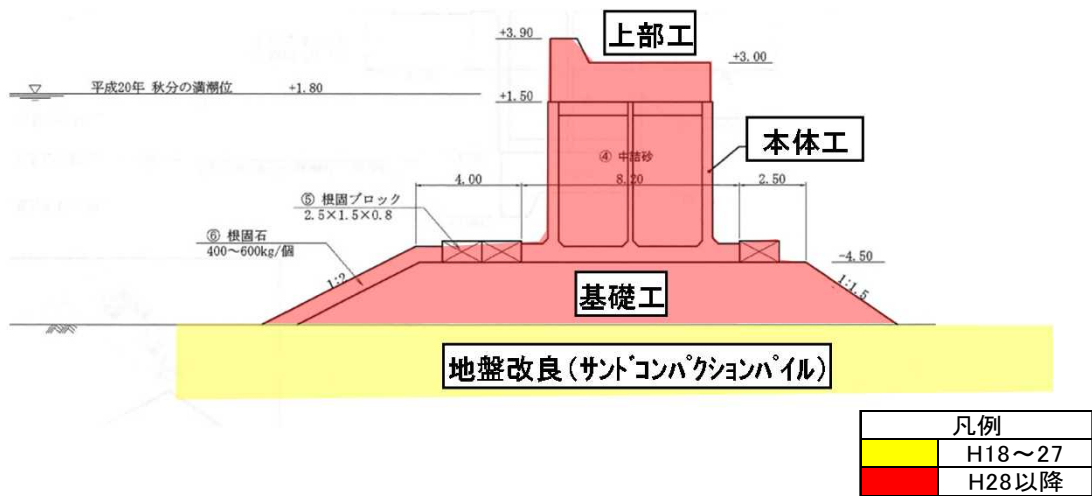
計画断面図

網手地区

物揚場(-3.5m) (A断面)



防波堤 (B断面)



1. スケジュール

	～H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
真浦地区														
物揚場(-3.5m)改良 延長60.0m		設計		設計			施工							
				設計			施工							
護岸 延長70.0m 棧橋 延長35.0m		設計	施工											
			設計	施工										
網手地区														
物揚場(-3.5m)新設 延長60.0m		設計	施工											
			設計				施工							
物揚場(-4.0m)新設 延長60.0m		設計				施工							施工	
			設計										施工	
防波堤新設 延長275.0m		設計	施工											
		設計	施工											
ふ頭用地 6,500m ²		設計	施工											
		設計											施工	

— : 当初計画
— : 実施・計画

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

事業	主な便益(B)	算出方法
港湾	①移動コスト、時間短縮便益 隣接施設から移動コスト、時間短縮による便益	隣接施設による移動コスト、時間費用 — 整備後の移動コスト、時間費用 移動コスト、時間費用: $\Sigma(\text{移動コスト、時間})$ $\times \text{移動コスト、時間価値原単位} \times \text{貨物量、旅客数}$
	②運航時間短縮便益 旅客船の離発着時間による便益	貨物船シフト前運航時間—シフト後運航時間 運航時間費用: $\Sigma(\text{短縮時間}) \times \text{時間価値原単位} \times \text{旅客数}$
	③待ち時間短縮便益 貨物船が岸壁の空きを待つ時間削減による便益	整備前の待ち時間費用—整備後の待ち時間費用 滞船時間費用: $\Sigma(\text{待ち時間}) \times \text{時間価値原単位}$ $\times \text{滞船隻数}$

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	便益(B)		費用(C)			B/C	
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
港湾	家島港改修	①移動コスト、時間短縮便益	4,872.9	時間短縮 50分→31分	3,873.3	3,568.9	304.4	1.58
		②運航時間短縮便益	850.6	時間短縮 30分→27分				
		③待ち時間短縮便益	394.3	待ち時間短縮 20分				
		計	6,117.8					
	残事業費	①移動コスト、時間短縮便益	—	—	1,085.8	987.0	98.8	1.15
		②運航時間短縮便益	850.6	時間短縮 30分→27分				
		③待ち時間短縮便益	394.3	待ち時間短縮 20分				
	計	1,244.9						

(2) 費用対効果に含まれない効果

- ①真浦地区のターミナル整備による良好な景観の形成
- ②船舶輻輳が改善されるため、台風時に船舶の避難が可能となり、被害軽減に貢献
- ③家島へのアクセスにおいて、より利便性が向上するため観光・産業等の利活用が促進

港湾事業の効果

対象事業：家島港改修

(1) 費用対効果

評価の視点	効果項目 (費用対効果の便益内容)
移動コスト、時間短縮	隣接施設から移動コスト、時間短縮による便益
運航時間短縮	旅客船の離発着時間による便益
待ち時間短縮	貨物船が岸壁の空きを待つ時間削減による便益

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
地域 社会	環境改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ 真浦地区のターミナル整備による良好な景観の形成
	安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○ 危険物取扱の人口密集地からの回避
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 通常時の安全確保
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 台風時の避難泊地の確保
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急物資の円滑な輸送の確保
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旅客船乗降時の安全対策 	
地域経済	<ul style="list-style-type: none"> ○ 離島の利活用の促進 	

○印は当該事業効果の主な項目

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	本事業は、平成15年度に策定された「家島町 港湾・漁港マスタープラン」を踏まえた事業であり、実現に向けての関係者の期待が大きい。
-------	--